

科目区分	専門基礎分野	履修学年	1 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	解剖生理学 II			担当教員	外部講師 専任教員		
使用テキスト	1) メディカ出版 人体の構造と機能 ①解剖生理学						
テキスト以外の教材・参考書等	1) 目でみるからだのメカニズム 医学書院 2) 看護形態機能学 生活行動から見るからだ 日本看護協会出版 3) 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】解剖生理学 医学書院						
授業の概要と到達目標							
<p><u>授業の概要</u></p> <p>本科目の構成は「体を守る」「体の調子を整える」という2部構成となっている。「体を守る」では体の表面を守る皮膚について、生体の防御機構である免疫について学び、「体の調子を整える」では調節する手段として自律神経と内分泌について学び、最後に看護技術・ヘルスアセスメントにつながる体温の調節を学ぶ。</p> <p><u>到達目標</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 調節機構としての神経性調節が理解できる。 2. 調節機構としての液性調節が理解できる。 3. 生体の防御について理解できる。 4. 生体防御の1つである発熱について看護技術・ヘルスアセスメントとつなぎ合わせて理解できる。 							
評価方法	筆記試験						
備考	関連科目：自然科学(生物学),生化学						

回数	授業計画 学習内容	備考	
1	神経性調節	外部講師	
2	自律神経による調節		
3	自律神経の機能(自律神経の特徴、交感神経と副交感神経、自律神経の中枢) 自律神経の構造(交換神経と副交感神経の構造、内臓の感覚神経) 自律神経の神経伝達物質と受容体		
4	内分泌系による調節	外部講師	
5	内分泌とホルモン(分泌物の伝わり方とホルモンの特徴、ホルモンの生理作用)		
6	ホルモンの化学構造と作用機序		
7	全身の内分泌腺と内分泌細胞		
8	視床下部一下垂体系(下垂体の構造、神経内分泌、視床下部・下垂体前葉・下垂体後葉ホルモン) 甲状腺と副甲状腺(構造、甲状腺ホルモンの産生・作用・分泌調節、カルシトニンの作用、副甲状腺の機能) 膵臓 (構造と機能) 副腎 (構造、副腎皮質の機能、副腎髄質の機能) 性腺 (構造と機能) その他の内分泌腺 ホルモン分泌の調節(神経性調節、自己調節、促進・抑制ホルモンによる調節、正・負のフィードバック) ホルモンによる調節の実際(糖代謝・カルシウム代謝・ストレスとホルモン、乳房の発達と乳汁分泌、高血圧をきたすホルモン)		
9	身体機能の防御と適応		外部講師
10	皮膚の構造と機能(皮膚の組織構造、皮膚の付属器、皮膚の血管と神経)		
11	生体の防御機構(非特異的防御機構、特異的防御機構、生体防御の関連臓器)		
12	体温とその調節	専任教員	
13	熱の出納 (産生と放散)		
14	体温の分布と測定 (分布と測定、体温の日内変動と性周期による変動) 体温調節 (温度受容器、体温調節中枢) 発熱 高体温と低体温 (高体温、低体温)		
15	終講試験 まとめ解説		